

こども通信

塚田こども医院

小児科・アレルギー科

 上越市栄町 2-2-25
 TEL 025-544-7777(代)
 025-544-7779(保育室)
 FAX 025-544-8456

 各種ネット予約
www.0255447777.com/i
 ホームページ
www.kodomo-iin.com

すでに初夏の暑さも感じていま
 す。これから梅雨の大雨、そして猛
 暑と過ごしていく日々がやってきま
 す。

コロナにも、熱中症にも気をつけ
 てお過ごしください。

* * *

今月は当院の開院記念
 の月。31周年になりました。
 た。長くなったものです。
 小さな小児科診療所とし
 て始まりましたが、今で
 はずいぶんと大きな組織
 になりました。開院当時の面影はあ
 まり残っていないかもしれませ
 ね。

医師一人の医院でしたが、数年前
 から2人目の医師が着任。今月から
 はさらに3人目の医師も診療に加わ
 ることになりました。
 ちょうど新型コロナワクチン接種



の個別接種体制を拡充しようとして
 いた時。医師の充足により、診療は
 もちろん、予防接種などにもさらに
 積極的に取り組んでいくことができ
 るでしょう。ご期待ください。

また、わたぼうし病児保育室が20
 周年を迎えます。地域の子育て支援
 のために病児保育を始め
 20年。数々の出来事があり
 ましたが、その一つ一つを
 解決しながら、今の形になっ
 ています。

預かり数では全国最大級
 になりました。「断らずに預かる」
 という方針も、当初から守り続け
 ています。この20年間のべ4万人以
 上のお子さんをお預かりしています
 が、当方の都合でお断りしたことは
 一人もいません。全員受け入れです。
 親御さんが困った時に利用しても
 らう病児保育ですから、こちらの事

感染症情報

新型コロナウイルス感染症が日本の各地で猛威となっています。東京都などでの非常事態宣言はなかなか解除できず、地方に広がってきました。さらに、イギリス株やインド株といった変異株のまん延が今後の対応を難しくしています。

ワクチン接種が医療従事者から始まり、現在は高齢者が受けています。政府は7月末までに高齢者分を終わりにし、一般成人への接種を急ぐ方針です。効果の高いワクチンですので、接種が広く進めば流行は抑制されてくるのが期待されます。しかし、流行を拡大させやすい若い人たちの接種は早くても夏以降ですし、すぐに元の生活に戻れることはありません。引き続き十分に警戒していきましょう。

予防対策の基本はこれまでと変わりはありません。流行地との往來を避け、大人数での会食は控えるようにしましょう。マスク、手洗い、周囲と十分な間隔をとる、といった各自の対応をお願いします。

子どもたちの中で特に目立った感染の流行はありません。通常の感冒（ウイルス性咽頭炎など）は多くなってきました。

感染性胃腸炎が少し発生しています。小児は脱水や低血糖になりやすく、ぐったりとしている場合はすぐに受診して下さい。

溶連菌感染症とアデノウイルス性咽頭炎が少数ですが発生しています。溶連菌感染症は抗菌薬の治療が必要です。

風疹、麻疹の発生は当地ではありません。

情を優先するわけには行きませんが、そのために保育士を余裕を持って雇うなど、準備をしています。といっても、やはり多くのお子さんを預かりするのは大変です。日々の病児保育を担っている保育士やスタッフに感謝しています。当院はこれからも小児医療、そして子育て支援のために尽力していきます。ごようしくお願いします。

今月の予定

院長・副院長出務

上越市夜間診療所 16日

看護大学生実習 22日～

上越有線放送 「健康ライフ」 15日

FM上越 「Dr. ジローのこども健康相談」

毎週木曜午後1:20頃～(76.1MHz)

感染症情報 (毎週)

FM上越: 木曜午後1:35頃～

上越有線放送: 月曜午後6時～(番組内)

20周年になります

当院にわたぼうし病児保育室が併設されたのは21世紀最初の年、2001年6月でした。今月で満20周年を迎えました（パチパチ）。

振り返ると短かったようにも感じますが、この間（あるいはその前から）幾多の困難に出会いながら、でも一つ一つ解決し、成長し続けて、そして今に至っています。

●病児保育って何？

私が最初に病児保育というものに出会ったのは医院が5周年を迎えた時です。1995年になります。

この地域に小児科専門の診療所として誕生し、当初は少ない受診者から始まりましたが、次第に大勢の子どもたちが来てくれるようになりました。5年がたち、少し「欲」が出てきました。病気になった子どもたちを診ているだけではつまらない：そんな言い方をしては失礼ですね。これはもちろん大切ですが、その上で、地域の子育て支援をしてみることが

できないかと模索しました。

いろんな課題がありますが、「小児科医でなければできない子育て支援」は何か、と考えていると、当時全国で少しずつ話題に上っていた「病児保育」に出会いました。

子どもは病気をするもの。それも急に始まることが多いです。でも、大人の仕事はなかなか急には休めない。そんな時に病児保育という事業があれば、子どもも大人も助かる。これこそ、小児科医がやるべき事業だと思いました。

●夢の挫折と再挑戦

公的な支援がないと難しいようなので、さっそく上越市に事業について働きかけました。市の中でもご理解が進み、その後「病後児保育事業（回復期）」が作られました。市内に2箇所の施設です。予算もでき、さて事業者を募集する段になり、「事件」がおきました。

税金を使って行う事業なので、医師会を通して事業化することになったのですが、理事会では「公的な機関が行うべき」とされ、個人事業主

である当院はそれを受託することはできないことになりました。

それから数年間は腐っていました（笑）。本業には熱心に取り組んでいましたが、子育て支援には乗り出すことができませんでした。

ある時、先にスタートしていた市の病後時保育事業が、さほど大きな利用がなく、いわば低迷していることを知りました。

私が常日頃接している若い親御さんの状況からは違和感を覚え、本当はもつと利用希望者があるはず。それなのに今の体制ではそれを十分に応じることができないという。これは何とかしなければ！

一度捨てた「夢」を、もう一度拾い直しました。よし、自分の思い通りに病児保育を作ろう！

公的な補助が絶対条件だと思い込んでいたけれど、工夫すれば何とかなりそう。むしろ行政という縛りがないほうが、親御さんのニーズをしっかりと受け止めることができるはず。そういった、逆転の発想もしてみました。

●夢の実現から20年

無事スタートはしたものの、当初は知名度ゼロ。どんなことを、どこで、どのようにやっているか、誰も分からない状態。私たちも手探りでした。

それでも3年ほどすると、きちんとした園舎が必要になり、保育士も新規に雇用を続けました。現在は専任保育士が10名ほどの体制になっています。

上越市も2009年に新たに「病児保育事業（急性期）」を立ち上げ、当院が受託することになりました。経営的にも大いに安定したことはいうまでもありません。

苦労話は尽きないのですが、私の「夢」を実現し、ここまで大きく育てることができたのは、親御さん、行政の方々、地域の方々のご理解があったからです。また日々病児保育に汗水垂らしながら（本当です）携わっている保育士の努力にも感謝しています。

永遠は無理にしても、今後とも子育て支援に携わり、いずれ次の世代に引き継ぎようと思っています。